

平成 21 年 6 月 22 日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
 研究期間： 2006 ～ 2008
 課題番号： 18390574
 研究課題名 (和文) 教員のための遺伝教育プログラムの開発と評価
 研究課題名 (英文) The Development and Evaluation of Genetic Nursing Education Program for Faculty
 研究代表者
 安藤 広子 (ANDOU HIROKO)
 岩手県立大学・看護学部・教授
 研究者番号：20267503

研究成果の概要：

わが国の看護基礎教育において遺伝看護教育を導入・発展させていくために、看護教員のための教育プログラムの開発にあたり、国内・外の遺伝看護教育の実態調査を行った。それによると、基礎教育全体に遺伝看護の要素が盛り込まれる傾向にあること、看護学以外のコースに「遺伝カウンセラー養成」等の大学院修士レベルのコースが設置されつつあった。しかし、「遺伝看護教育」とはどのようなものであり、その教育展開はどうあったらよいかを知りたいというニーズが多かった。

教育プログラムの内容および展開方法については、海外の研究協力者と共に国際的な視野から検討を行い、実施した。そして、臨床遺伝学の基礎と主な疾病の事例展開を中心に、E-ラーニングと対面授業を行い、websiteでの調査とフォーカスグループ・インタビューによる評価を行った。学習モニターは、全国を8ブロックに分けて募集をした看護学教員30名であった。対面授業による学習者の情報交換および交流は、遺伝看護教育のあり方を検討する上で、有意義な反応がみられた。また、学習者の要請により、本研究において作成したE-ラーニング教育内容および「国際遺伝看護教育セミナー2007 & 2008」の講義内容を冊子体に編集をした。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2007年度	6,700,000	2,010,000	8,710,000
2008年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総計	15,200,000	4,560,000	19,760,000

研究分野： 遺伝看護学

科研費の分科・細目： 看護学・基礎看護学

キーワード： 遺伝看護教育,教育プログラム,e-ラーニング,看護学教員

1. 研究開始当初の背景

わが国の遺伝医療システムの検討は、厚生

科学研究「遺伝医療システムの構築に関する研究」(平成10年～平成15年)として行わ

れてきた。そして、平成 14 年に臨床遺伝専門医制度が、平成 17 年には認定遺伝カウンセラー制度が発足した。の検討が行われ、本研究からは「認定遺伝カウンセラーの資格認定のための教育内容・認定試験に関する検討に参加してきた。認定遺伝カウンセラーの養成は、国際的な教育レベルに合わせた大学院修士の教育となった。わが国の専門看護師も大学院修士の教育となっており、遺伝専門看護師については日本遺伝看護学会を中心として検討が行われている。教育内容は、国際遺伝看護学会 (International Society of Nurses Genetics, Inc. : ISONG) の認定遺伝看護師や、わが国の認定遺伝カウンセラーの養成教育内容を参考にすると考える。しかし、看護基礎教育における遺伝に関する検討は、研究者らがそれぞれに行った遺伝医療・看護に関連する教科目や内容項目の実態調査に止まっている。本研究により、看護教員に遺伝看護についての理解を深め、その教育に導入・展開をしていくことが期待される。

2. 研究の目的

本研究は、看護学教育における遺伝看護教育の充実を図ることを目的に、看護基礎教育に携わる教員を対象とした遺伝看護の教育プログラムの作成・実施・評価を行うことである。

ヒトゲノムの研究が進み、遺伝子が人間の健康に密接に関わっていることが明らかとなってきた。そしてこれまでの単一遺伝子による稀な病気を持つ人々を対象にケア提供をしてきた遺伝看護 (Genetics Nursing) から、遺伝子と遺伝子相互や環境との関連によって生じるとされる多くの病気などのあらゆる健康のレベルを対象とした遺伝看護 (Genetics & Genomics Nursing) へ看護の範囲が拡大されてきた。このため、遺伝看護の要素は人間の健康に関する看護教育の全般に関与すると考えられる。また、遺伝医療、バイオや情報通信技術の急速な発展をしている社会にあって、看護学に新しいパラダイムとしての遺伝看護の教育が求められている。それには、遺伝看護の要素を教育に導入し、展開をする看護学教員の遺伝看護に関する教育の機会が必要であると考える。

本研究では、初めに看護基礎教育における遺伝看護の教育内容・教授方法の検討を行い、遺伝看護を教育に導入するにあたっての教員の認識調査を全国的に行う。それをもとに、教員のための教育内容・方法の教育プログラムを作成し、教員を対象にそのプログラムを実際に展開し、参加教員の教育への導入などの追跡調査を行おうと考えている。

3. 研究の方法

1) 国内外の遺伝看護教育の実態について、報告論文や通信媒体から情報収集、国際看護学会 (ISONG) のメンバーである有識者からの聞き取り調査を行った。

2) 教育プログラムの作成および展開方法について、海外の研究協力者と共に国際的視野から検討した。

3) 教育プログラムの展開は、全国を8ブロックに分けて看護教育者を対象に学習モニターを募集し、E-ラーニングと対面授業を行った。その評価は、website による調査とフォーカスグループ・インタビューにより行った。

4. 研究成果

国内・外の遺伝看護教育の実態調査を、報告論文や通信媒体物から情報収集、有識者からの聞き取り調査を行った。国内の遺伝看護教育の状況は、教育機関に違いはあるが、看護教育内容の全体に遺伝看護の要素が導入されてきている状況にあった。看護学以外のコースとして「遺伝学関連」の大学院修士レベルのコースが設置されつつあった。

教育プログラムの内容および展開方法については、海外の研究協力者と共に国際的な視野から検討を行った。E-ラーニングや遠隔授業などの環境整備として、学習モニターへの website による調査や近隣の病院への遠隔公開講義「英国における遺伝看護の現状」(講師：海外研究協力者)を行った。その一部を ISONG Conference (International Society of Nurses in Genetics) 19-22 May 2007 Bristol, England UK “The Development of a Genetic Nursing Distance - Learning Program” として報告して評価を受けた。

学習モニターは全国を8ブロックに分けて30名の看護学教員を対象とした。教育プログラムの展開は、E-ラーニングと対面授業を2年間(2007年と2008年)行った。2007年には、看護基礎教育へ遺伝看護の導入に向けて、遺伝看護の教育状況の把握と遺伝看護教育のあり方について行った。学習の事前調査を website で行い、対面授業に海外専門家を講師として招聘して「国際遺伝看護教育セミナー2007」を東京国際交流センターで開催した。本研究者は、これまでの調査や教育実践について講義を行った。このことから、講師と学習者間で講義に対する質疑・応答が活発に行われ、また交流の時間の活用により、学習者間においても情報収集・交換が行われた。2008年には、E-ラーニング教材として、主な遺伝性疾患の事例展開学習ができる5事例を作

成した。それをE-ラーニングで展開し、さらに対面授業である「国際遺伝看護教育セミナー2008」で3事例について解説を行った。その後フォーカスグループ・インタビューによる教材活用についての評価を行った。評価の中で、特に遺伝看護教育の必要性が高く、それを前提とした意見交換であったことから、学習者の遺伝看護教育に対する意識が高まったといえる。

また、学習者からの要望があった本研究において作成したE-ラーニング教育内容および「国際遺伝看護教育セミナー2007 & 2008」の講義内容を冊子体に編集をした。さらにCD教材による学習ができるように編集を考えている。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 5 件)

2007 年

① Hiroko Ando, yuko Asanuma, Toshiaki Tkeda, Yoshitaka Sibata: Support for the Local Community in Advances in Specialist Occupations: "Genetic Nursing Education Project", National Coalition for Health Professional Education in Genetic Annual Meeting, Bethesda, Maryland,

② Hiroko Ando, Siho Abe, Yoshitaka Sibata, Hisashi Ichikawa etc.: The Development of a Genetic Nursing Distance - Learning Program, 20th International Society of Nurses in Genetics, Inc. Conference.

③ Hiroko Ando, yuko Asanuma, Toshiaki Tkeda, Yoshitaka: A trial Genetic Nursing E - Learning Program for Working Nurses, International Council of Nurses Conference 2007.

2008 年

□ Yuko Asanuma, Hiroko Ando, Hidechika Iino, Masato Tsukahara, Mitsuko Mizoguchi, Hisashi Ichikawa : Report of the International Symposium on Genetic Nursing Education In Japan, 21st International Society of Nursing Genetics Conference (Philadelphia)

□ Hidechika Iino, Masato Tsukahara, Mitsuko Mizoguchi, Hiroko Ando ; Pilot Research on Japanese Genetic Nursing Education by E-learning 21st International Society of Nursing Genetics Conference (Philadelphia)

〔その他〕

遺伝看護教育資料としての冊子作成
タイトル：遺伝看護教育資料
サイズ：A4 106 頁

内容目次：

- I-1 “Genetic Nursing Education for Undergraduate Students”
Karen E. Greco, PhD, RN, APN
University of Arizona (USA)
- I-2 “遺伝学の基礎知識”
塚原正人 山口大学
- I-3 “遺伝医療関連情報検索”
飯野英親 山口大学医学部付属病院
- I-4 “マルファン症候群”
溝口満子 東海大学
- I-5 “糖尿病”
浅沼優子 岩手県立大学
- I-6 “ダウン症候群”
飯野英親 山口大学医学部付属病院
- II-1 “An Investigation of the Situation of Genetics Education in Japan”
Dr. Hiroko Ando (JAPAN)
Iwate Prefectural University
- II-2 “Developments in Genetic Nursing Education in Japan”
Dr. Michiko Mizoguchi (JAPAN)
Tokai University
- II-3 “Essential Nursing Competencies and Curricula Guidelines for Genetics and Genomics”
Dr. Cynthia A. Prows, (USA)
Cincinnati Children’s Hospital Medical Center (USA)
- II-4 “Genetic Medical Care and the Nursing Situation in Britain”
Dr. eather Skirton, (UK)
University of Plymouth
- II-5 “Genetics Development & Transmission”
Dr. John M. Opitz (USA)
University of Utah
- II-6 “The Adaptation Process of Mothers of Children with Down Syndrome in Korea”
Dr. Mi Young Kim (KOREA)
Ewha Woman’s University
- II-7 “Genetics for the Doctorate of Nursing Practice”
Dr. Lorraine Frazier (USA)
University of Texas Health Science Center at Houston School of Nursing

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 広子 (ANDOU HIROKO)

岩手県立大学・看護学部・教授

研究者番号：20267503

(2) 研究分担者

塚原 正人 (TUKAHARA MASATO)

山口大学・理事・副学長

研究者番号：20136188

溝口 満子 (MIZOGUCHI MICHIKO)

東海大学・健康科学部・教授

研究者番号：00287103

市川 尚 (ICHIKAWA MASASHI)

岩手県立大学・ソフトウェア情報学部・
助手

研究者番号：40305313

(3) 連携研究者

飯野 英親 (IINO HIDECHIKA)

山口大学医学・部附属病院・副看護部長

研究者番号：20284276

浅沼 優子 (ASANUMA YUUKO)

岩手県立大学・看護学部・講師

研究者番号：10305261

横山 寛子 (YOKOYAMA HIROKO)

東海大学・健康科学部・教授

研究者番号：30143150

研究協力者

Heather Skirton, PhD ,RNM, APN

University of Plymouth, (UK)

Karen E. Greco, PhD, RN, APN

University of Arizona (USA)

Cynthia A. Prows, MNS, RN, ANP

Cincinnati Children's Hospital Medical
Center (USA)